

# ゆいゆい通信

NO. 20  
平成30年 3月号  
NPO法人 癒居

加古川市尾上町養田 1436-5  
(TEL: 079-490-4165)  
<http://yui-2011.jimdo.com/>  
E-mail: yui2011@honey.ocn.ne.jp

待ちましたよ、春!

今年の冬は寒さが厳しかったせいか、春が待ちどおしかったように思います。法人癒居は大きな事故もなく年を越し、3月の年度末を迎えました。今、癒居の庭は水仙の花がいっぱい咲いています。昨年の秋にご近所から頂いた球根を30個植えたところ、しっかり根付きました。春の温かさや優しさに包まれて、芽吹く青葉や花に生きる力を頂きたいと思います。



## 終活フェスタに出展しました!

2017年12月3日東播磨生活センター「かこむ」で「介護・終活フェスタ2017in はりま」が開催され、「ホームホスピス癒居」も「住まいの部」で出展させていただきました。

近年、「終活」という言葉があるように、自分が「どこで」「だれと」「どのように」最期を迎えるのかを事前に考え準備しておく活動が少しずつ広がりを見せています。こうした「亡くなり方」を追求するうえで、欠かせないのが「どこで最期を迎えるか」という「場所」選びです。

住み慣れた「自宅」で最期を迎えたいと願いつつ、身体の状態や家族の事情、住宅環境・介護の問題等によりそれが難しい現代、「病院」や老人ホームなどの「施設」という選択が急激に増えてきています。その選択肢の一つに「ホームホスピス」も加えて考えていただきたいという思いから初めて出展する運びとなりました。

ホームホスピス癒居は、「病院」でも「施設」でもない定員6名の小さな「家」で、我が家のように自由に自分らしく、ご本人やご家族が安心して人生の締めくくりができるように専門スタッフが最期まで寄り添う場所として紹介させていただきました。入居される方々が「癒居」の暮らしに慣れていただくのではなく、個々が今までに築き上げた暮らしを癒居で再現するお手伝いをすることでオーダーメイドのケアを心がけています。

加古川市内では「ホームホスピス」が1か所しかありませんので、まだまだご存じでない方が多く、地域住民の方々だけでなく、福祉関係の方々にも、周知していただく良い機会となりました。また、加古川市内にもたくさんの病院や施設があります。もし、人生の最期を

どこで過ごそうかと迷っている方がいらっしゃったら、事前に暮らしぶりを見学することをお勧めします。また、このような催しは今後も開催される見込みで、「住まいの部」だけでなく財産管理や遺品整理、葬儀、ペット霊園、福祉用具の貸与、配食サービス、介護タクシーなどの業者も数多く出展されています。

ぜひ、足を運んでみてはいかがでしょうか?



## 投稿 利用者さんの思い

曾孫さんを抱いたり、お孫さんにカットしてもらい素敵になったHさんに感想を聞いてみたら、髪を撫でてにっこり。今の気持ちを文字にしてほしいとお願いしますと

ここ癒居に入居させて頂いて半年余りが過ぎました。今迄何事も前向きに考えるように弱気な態度を周囲に見せずがんばって生きてきました。でも最近では気分的に落ち込んだりする事もありますが、職員さん達が優しい態度で接して下さるのでそれに答えるためにも生命あるかぎりがんばります。

「お父さん淋しいでせうがもう少し待っててね。」

この原稿をいただいてから、1週間後にお父さんが待つ天国へ旅立たれました。ご家族のご意向もあり掲載させて頂きました。心よりご冥福をお祈りいたします。



### ひな祭り



暖かい日お庭で豆まき



### 癒居の四季折々



ぜんざいを  
作ったよ。



尾上神社に初詣

### 忘年会



お部屋におじゃましてランチ



## 癒居の ボランティアさん

♡ ボランティアさん募集しています。 ♡

昨年の秋より、加古川市社会福祉協議会の登録ボランティア「ガーベラの会」の方が癒居で活動をしてくださっています。会員全員、加古川緩和ケア研究会・社会福祉協議会が主催するホスピスボランティア研修会を受講された方です。

現在、2名の方に月2回程度、利用者さんの話相手・傾聴・寄り添いをしていただいています。お2人はヘルパーをされていますが、その仕事中にはゆっくり利用者さんと向き合って話をする時間がとれず残念に思われていたそうです。

話が弾んで、1時間はあっという間に過ぎてしまい、「今日も予定時間オーバーやわ」と満ち足りたHさんの顔は桜色。話を聞いてくれる人がいることのありがたさ、語ることで自分の人生を振り返り、まとめができています。 「私は幸せ」はHさんの口癖です。